

小型トラック「日野デュトロ」を改良して発売 PCS を全車に標準装備、排出ガス適合車もラインアップ

日野自動車(株)は、小型トラック「日野デュトロ」を改良して、2017 年 5 月 8 日に発売する。

今回の改良では、衝突被害軽減ブレーキ「PCS (プリクラッシュセーフティ)」および「車線逸脱警報」を全車(LPG 車、消防車用車型を除く)に標準装備とした。既に標準装備としている車両安定制御システム「VSC (Vehicle Stability Control / LPG 車には設定なし)」や「電動パーキングブレーキ(ダブルキャブ・ルートバン・LPG 車には設定なし)」とあわせて、安全装備を一層充実させている。また、車両総重量が 7.5 トンを超える車型についてはエンジンおよび排出ガス後処理装置の改良により平成 28 年排出ガス規制に適合させた。あわせて、3 月から新設された「準中型自動車免許(車両総重量 7.5 トン未満の運転が可能)」に対応させ、車両総重量の上限を 7.5 トン未満とした車型を新たに設定した。

今回、全車に標準装備とした PCS は、フロントバンパー中央に装着したミリ波レーダーに加え、フロントウインドウの上部中央に画像センサーを装備しており、歩行者を検知することが可能で、先行車や、歩行者を含む

停止障害物に対して衝突回避または衝突被害軽減を支援する。また、画像センサーは車線逸脱警報の車線認識センサーとしても機能する。

今回発売する「日野デュトロ」のハイブリッド車は平成 27 年燃費基準+15%、ディーゼル車のうち 6 速 A / T 車は同+5%を達成(7.5 トン超車型、85kW エンジン搭載車型は除く)させている。このほかの車型も含め、「日野デュトロ」のハイブリッド車およびディーゼル車はすべて ASV 減税またはエコカー減税の対象となる。

なお、年間販売目標台数は、日野デュトロシリーズ全体で 26,300 台としている。また、代表車型の東京地区希望小売価格(税込)は次の通りとなる。

- ① 日野デュトロ ハイブリッド(TSG-XKU710M-TQUMC)ワイドキャブ・全低床ロングボデー・110kW (150PS)・Pro Shift V (5 速 AMT)・2.0 トン積…5,616,540 円
- ② 日野デュトロ(TPG-XZC605M-TQTMB)標準幅キャブ・全低床標準長ボデー・100kW (136PS)・6 速 AT・2.0 トン積…4,452,300 円



PCS を全車に標準装備した「日野デュトロ ハイブリッド」

ダイナならびにトヨエース 2t 積系を一部改良 衝突被害軽減のプリクラッシュセーフティ設定を拡大

TOYOTA は、ダイナならびにトヨエース 2t 積系を一部改良し、ダイナは全国のトヨタ店(大阪地区は大阪トヨペット)、トヨエースは全国のトヨペット店(大阪地区は大阪トヨタ)を通じて、2017 年 5 月 8 日に発売(平成 28 年排出ガス規制適合車の 6 速 MT 車は 6 月発売予定)する。

今回の改良では、衝突回避や衝突時の被害軽減を支援するプリクラッシュセーフティ(歩行者検知機能付)および車線逸脱による衝突事故の回避を支援するレーンディパーチャーアラートを標準装備(LPG 車を除く)。

また、環境性能については、ディーゼル車の一部(車両総重量 7.5t 超車両)で「平成 28 年排出ガス規制(国土交通省の低排出ガス車認定制度)」に対応。そのほか、AT 車においては、従来型に対し 7 ~ 5%燃費(重量車モード燃費、国土交通省審査値)を向上させた。

さらに、TECS (メーカー完成特装車)においては、ベース車と同様の改良を施すとともに、アルミバンのラインアップを充実させている。

なお、ダイナ、トヨエースの主要車型、および TECS 主要車型のメーカー希望小売価格(税込/北海道、沖縄のみ価格が異なる)は次の通りとなっている。

- ①カーゴ・標準シングルキャブ・高床ロング 3t 積・5 速マニュアル…4,399,920 円



ダイナ カーゴ 標準キャブ・ロングデッキ・高床・3t 積・ディーゼル車・2WD



トヨエース カーゴ 標準キャブ・標準デッキ・ジャストロー・2t 積・ディーゼル車・2WD “G パッケージ”装着車”



プリクラッシュセーフティ作動イメージ

- ②カーゴ・標準シングルキャブ・ジャストロー 2t 積・ECT…4,137,120 円
- ③カーゴ・ワイドキャブ・超高床ロング 3.5t 積・6 速マニユ

- アル…5,274,720 円
- ⑤ TECS アルミバン・ハイルーフ標準シングルキャブ・フルジャストロー 2t 積・6 速マニュアル…4,645,080 円



ダイナ アルミバン ワイドキャブ・ロングボディ・フルジャストロー・2t 積

話題のニュートラック新製品情報・新情報

ラフテレーンクレーン…タダノ

安全・品質・効率を具現化した ラフテレーンクレーン「CREVO160 G4」を発売

(株)タダノはこのたび、ラフテレーンクレーン「CREVO160 G4 (最大吊上げ荷重 16t)」を 2017 年 3 月 16 日に発売した。ラフテレーンクレーン(Rough Terrain Crane)は、ひ

とつの運転席で走行とクレーンの操作が行える自走式クレーンで、狭隘地での機動性に優れ、コンパクトさと小回り性を活かし、市街地などの工事において活躍するクレーンである。

また、CREVO (クレヴォ)は、CRANE(クレーン)+EVOLUTION (進化)の造語で、今回発売された CREVO160 G4 (クレヴォ・ジーフォー)は、2016 年 10 月発売の CREVO700 G4/CREVO250 G4 に続く G4 シリーズの第 3 弾となる。

CREVO160 G4 は、タダノのコアバリュー「安全・品質・効率」を具現化すべく、研究開発を進めてきた各種新機能をラフテレーンクレーンに搭載し、時代を切り開く「Generation 4 (G4)」として結実



新発売されたラフテレーンクレーン「CREVO160 G4 (最大吊上げ荷重 16t)」

させている。また、ディーゼル特殊自動車 2014 年排出ガス規制適合エンジンが搭載されている。

CREVO G4 シリーズは、安全走行をアシストする新機能の安全性や、新型キャビンの作業効率・操作性などが認められ「2016 年グッドデザイン賞」を受賞している。

なお、標準仕様の価格は 3,800 万円(税別)で、販売見込台数は年間 150 台となっている。

■ CREVO160 G4 の主な特長

(1) 2 段パワーチルト・ジブを搭載

従来の 1 段スタンダード・ジブから、2 段パワーチルト・ジブを初採用。ジブ長さが従来の 3.8 m から 6.9 m となり、最大地上揚程はクラス最高の 35 m を誇る。さらにジブチルト角度も、従来の最大 45° から 60° となり、作業領域が大幅に拡大した。

また 2 段パワーチルト・ジブを採用し軽量化を図ったことにより、ジブ本体の重量増加に伴うブーム性能のダウンを回避し、従来のブーム性能を保持。

(2) ラフテレーンクレーン初のセットアップラジコン(オプション設定)

周囲の状況を確認しながら、安全で効率的に作業準備や格納作業が行える「セットアップラジコン」を新採用。手元のラジコン操作で、アウトリガのスライドやジャッキの設置・格納、ジブの装着・格納、フックインなどのブーム格納操作(クレーン作業はできない)が行える。

(3) キャabin を新開発

キャビンのデザインと装備類を一新し、作業効率・操作性・視認性などが大幅に向上。

新採用の大型マルチファンクションディスプレイは、10.4 イン



新型キャビンの作業効率・操作性などが認められ「2016 年グッドデザイン賞」を受賞

ンチカラー・タッチパネルに、クレーンの作業情報や各種操作設定の機能を集約し、作業効率を高めた。さらに感圧式タッチパネルの採用により、手袋をした状態でも操作が可能。

また、操作レバーに電気式操作システムを採用。これまでにないフィット感のある操作性を実現した。旋回・boom起伏・ジブチルトの操作速度をそれぞれ5段階に設定可能で、オペレータのフィーリングに合わせた操作が可能。インパネの形状や高さ、ガラス面の角度を改善し、運転席からの視認性を向上。

(4)タダノビューシステムが安全走行をアシスト

クレーン業界では国内初の俯瞰映像表示装置「ワイドサイト

ビュー」を搭載。クレーンを上から見たような映像を大型カラーディスプレイに表示し、周囲の状況把握や安全確認をサポート。

また、クレーン業界では世界初となる人物検知警報装置「ヒューマンアラートシステム」は、運転席からは確認しづらい車両左前方の歩行者や自転車などに乗った人物を検知し、ブザーで知らせる。

(5)環境への配慮

環境に配慮した「燃料消費モニター」や、「エコ・モード」機能を搭載。CO₂排出の削減や、燃料消費量の改善、低騒音作業など、作業効率と環境に配慮した操作をサポート。



装備類を一新し、作業効率・操作性・視認性を向上させたキャビン



ラフテレーンクレーン初のセットアップラジコン

「CREVO160 G4」主要諸元表		
クレーン諸元		GR-160N
最大クレーン容量		16 t × 3.0m
最大地上揚程	boom	28.2m
	ジブ	35.0m
最大作業半径	boom	24.0m
	ジブ	27.8m
boom長さ		6.5m - 27.5m
ジブ長さ		4.5m / 6.9m

キャリア諸元		GR-160N
エンジン名称		カミンズ QSB6.7-4C
エンジン最大出力		175kW {238PS} / 2,300min ⁻¹ {rpm}
エンジン最大トルク		888N・m {90.5kgf・m} / 1,500min ⁻¹ {rpm}
全長		8,310mm
全幅		2,200mm
全高		3,150mm
車両総重量		19,795kg

また、ディーゼル特殊自動車 2014 年排出ガス規制にも適合したエンジンを搭載し、さらに超低騒音型建設機械指定



大型カラーディスプレイ採用で周囲の状況把握や安全確認を可能にしている

も取得している。

(6)テレマティクス Web 情報サービス「HELLO-NET」を装備

携帯・衛星通信によるクレーンの稼働状況の掌握と、GPS による位置情報確認、さらに保守管理のための情報をウェブサイトでサポート。使用の製品の情報をユーザーと共有し、一歩進んだサポート・サービスを提供。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

冷凍車事業強化…日本トレクス

日本初の欧州製断熱パネル生産設備を導入し 生産能力倍増など冷凍車事業を強化

日本トレクス(株)(本社：愛知県豊川市／西川柳一郎社長)は、温度管理車事業強化の一環として、最新鋭の断熱パネル生産設備を本社事業所内に導入し、品質向上と生産能力を増強した。

温度管理車は食品輸送・医薬品輸送など様々な分野で使用され、今後も安定した需要が見込まれている。また、輸送品質の要求も高まる状況にあり、同社はこの市場要

求に対応するため約9億円を投資し、欧州製最新鋭断熱パネル生産設備を導入した。

パネル面材に発泡原液を流し込みプレスするウレタンオープンフォーム工法を国内で初めて車両用パネルとして採用。従来のスチレンブロックを使用した接着工法ではサイズに限りがあったが、今回の設備導入により、将来的にトレーラに対応できるサイズまでの生産が

可能となった。

断熱性に優れたウレタン素材の採用により保冷性能は約 20% アップ(同社従来比)、さらに車両全体の構造を改良し、大型クラスで約 170kg の軽量化(同社従来比)を実現させている。

今後、同社ではトラック系温度管理車の生産能力倍増を目指しラインの設置を進めており、2017 年 5 月を目途にバントラックの受注を開始する予定となっている。

現在、温度管理車の納期が延びてい



フラットパネル・ウイングボデー



フラットパネル・バン



冷凍フラットパネル・ウイングボデー



東京モーターショーに出品されたフラットパネルの冷凍トレーラ



る状況にあり、今後は生産の前倒し等を進め、納期の圧縮を図って行く計画だ。また、欧州のトレーラ市場においても同技術の採用が進んでおり、今後同社も検証を進め、トレーラ系温度管理車へも順次拡大する方針となっている。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

低燃費タイヤ…横浜ゴム三重工場

地球温暖化対策として 三重交通の大型電気バスに低燃費タイヤを寄贈

横浜ゴム(株)の三重工場(三重県伊勢市)は、2017 年3月 13 日、三重交通(株)の大型電気バスのデザインリニューアルに合わせ、リニューアル車両向けにトラック・バス用タイヤを寄贈した。横浜ゴムと三重交通は、共に伊勢市が主導する低炭素社会づくりに取り組む「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」に参画し、協力関係を築いている。横浜ゴムによるタイヤ寄贈は 2014 年、2016 年に続き 3 回目。リニューアル車両は3月 15 日から運行されている。

伊勢市は「伊勢市環境基本計画」や「伊勢市地球温暖化防止実行計画」に基づく地球温暖化対策として、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」を設立し、化石燃料に依存した暮らしから低炭素社会での暮らしに移行していくため、電気自動車などの普及啓発に取り組んでいる。

三重交通は 2014 年 3 月から伊勢市内乗合バス路線で大型電気バスの運行を開始している。電気バスの導入は東海地方のバス会社では初、また国産大型電気バスの通年営業は全国初の取り組み。電気バスを幅広い世代に周知、浸透させるため当初から「ポケットモンスター(ポケモン)」のブランドマネジメントを行っている(株)ポケモンからデザイン協力を得ており、今回のリニューアルでは様々な「電気タイプ」のポケモンが外装、内装に配置された。

三重工場はトラック・バス用、ライトトラック用、SUV 用タイヤの専用工場。今回寄贈したのは低燃費指向オールシー



三重交通の大型電気バス

ズンタイヤ「ZEN 702ZE-i」で、従来品(ZEN 701ZE)に比べこがり抵抗を 18% 低減させ、燃費向上を図っている。



三重交通伊勢営業所で行われた贈呈式の様子。谷口弘幸三重交通取締役(左)に目録を渡す横浜ゴムの森本剛央三重工場長(右)

話題のニュートラック新製品情報・新情報

電気トラック…三菱ふそう

電気トラックのトップランナーを目指し 米トラックショーで「eCanter」を披露

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、米インディアナ州インディアナポリスで開催された「National Truck Equipment Association (NTEA) Work Truck Show」で、電気小型トラック「eCanter」を披露した。

「eCanter」は市街地での騒音や排出ガス問題に対するソ

リューションを提供し、市街地配送をクリーンで静粛にする。航続距離は配送トラックの 1 日平均走行距離を超える 100km 以上(日本の場合、都市部で使用される小型トラックの 80% は、1 日の平均走行距離が 50km 程度)となっている。

ゼロ・エミッションを実現した「eCanter」は、実際の走行条



市街地配送をクリーンで静粛にする電気小型トラック「eCanter」

件下でユーザーによる試乗を通して、技術的に高い信頼性を確保したうえで、日常の利用で十分な走行距離と積載量を達成できることを証明している。

Mitsubishi Fuso Truck of America, Inc. の Jecka Glasman 会長兼 CEO は同イベントで、「eCanter は市街地での小型トラックの未来像を描き出すでしょう。同車種は排出ガスゼロ、騒音ゼロを実現するとともに、最大で 100 キロ以上の走行が可能です。私たちはこれを『ポジティブ・エネルギー』と呼んでいます。これまでに複数のお客様と話し合いをした結果、eCanter に対する関心が大きいことを実感しました。これ



グローバルで注目されている「eCanter」



電気小型トラック「eCanter」の運転席

は私たちにとって、大きなモチベーションになっています」と述べている。

「eCanter」は 2016 年に独ハノーバーで開催された世界最大の国際商用車ショー「2016 年度 IAA 国際モーターショー」で初公開され、世界の注目を集めた。

「eCanter」の量産先行モデルは、2017 年後半から米国、日本、欧州

で納入されており、これにより MFTBC は、商用車メーカーとして世界で初めて、電気小型トラックの量産モデルを納入したメーカーとなった。

MFTBC は電気トラック分野のトップランナーとして、電気トラックの開発にこれまで 4000 万ユーロを投じてきた。ゼロ・エミッションを実現した同車種は、ポルトガル・トラマガル工場および川崎工場で生産されている。

今回出展された車種は、そのラインナップの中から、車いすのまま乗車できる「セレナ チェアキャブスロープタイプ」をはじめ、電気自動車のまったく新しいカタチ「NOTE e-POWER」をベースに開発した「ノート 助手席回転シート」など、計 6 台となった。いずれも、家庭での利用はもちろん、福祉施設や病院の送迎用など、幅広いニーズに応えることができるモデルである。

また、バリアフリー展の展示ブースでは、車両や歩行者との衝突回避をサポートする「エマージェンシーブレーキ」や、駐車時などに上空から見下ろしたように把握できる「アラウンドビューモニター」など、日産の先進安全装備も展示された。

■出展車両一覧

- ① セレナ チェアキャブ スロープタイプ (車いす 2 名仕様)
- ② セレナ チェアキャブ リフタータイプ (助手席スライドアップシート付)
- ③ セレナ セカンドスライドアップシート
- ④ ノート 助手席回転シート
- ⑤ 日産デイズ ルークス 助手席スライドアップシート
- ⑥ NV100 クリッパーリオ チェアキャブ



日産 NV100 クリッパー リオ チェアキャブ (2WD)



家庭での利用から福祉施設や病院の送迎用など幅広いニーズに応えるチェアキャブの室内

話題のニュートラック新製品情報・新情報

販売台数…UDトラックス

UDトラックスブランドの世界販売台数 2016年は前年比 3.1%増の 2 万 419 台に

2016 年、UDトラックスブランドの世界販売台数が、前年比 3.1%増の 2 万 419 台となった。

日本市場では、前年比 4.0%減の 1 万 661 台となったものの、トラクタ系の販売が引き続き好調となった。

また東南アジア市場では、インドネシアなどで好調なタイで生産する「クエスター」の販売に支えられ、前年比 38.4%増の伸びを記録した。

先日タイにおいて UDトラックスは、ユーザーの生産性を最大に引き出す新発想の中型ト



2017 年 4 月 11 日に発表された新型「クオン」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

LV 出展…日産&オーテック

大阪で開催の「バリアフリー 2017」に 幅広いニーズに応える福祉車両 6 台を出展

日産自動車(株)と(株)オーテックジャパンは、2017 年 4 月 20 日から 22 日までの 3 日間、インテックス大阪で開催された「バリアフリー 2017」(第 23 回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展)に、ライフケアビークル(LV) 6 台を出展した。

日産自動車グループでは、ユーザーの生活のいろいろなシーンで役に立ちたいとの意味を含め、福祉車両を「ライフケアビークル」(LV: Life Care Vehicles)と呼称し、個人ユースから施設での利用まで対応できる幅広いラインナップを取り揃えている。



日産セレナチェアキャブ スロープタイプ 車いす1名セカンド仕様 ハイウェイスター (2WD)

ラックとして新興国向けの「クローナー」を発表している。クローナーは今後、アジアやアフリカ、中東、南米の成長市場向けに投入する計画となっており、この地域での UD トラックの伸びが期待できる。

また、日本では安全性、省エネ性、架装性を大幅に向上させた大型トラックの新型「クオン」も発表されており、その市場の評価も期待できる。



2017 年 3 月 1 日にタイ・バンコクで発表された中型トラック「Croner (クローナー)」

東南アジア各国で販売されている
新興国向け大型トラック
「Quester (クエスター)」



市場別販売台数（工場出荷ベース）

地域	2015	2016	前年比
中南米	260	386	48.5%
アジア	15,817	16,772	6.0%
日本	11,102	10,661	-4.0%
東南アジア	3,043	4,211	38.4%
南アジア	655	910	38.9%
中東	1,017	990	-2.7%
オセアニア	938	1,030	9.8%
アフリカ	2,784	2,231	-19.9%
合計	19,800	20,419	3.1%

話題のニュートラック新製品情報・新情報

インドネシア…三菱ふそう

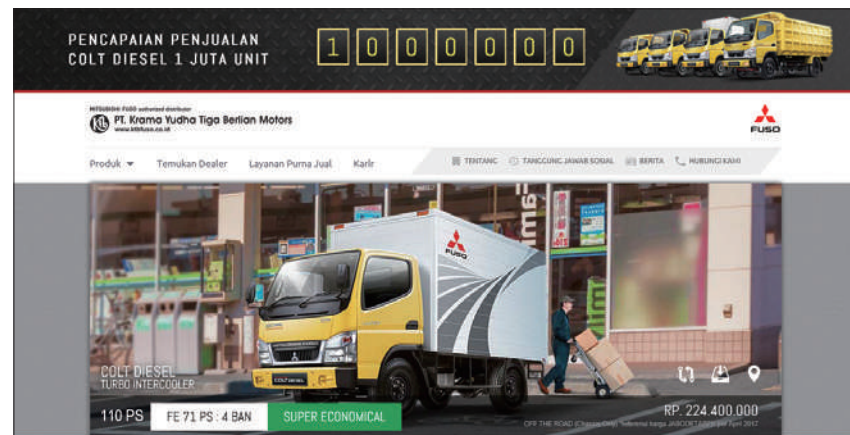
インドネシアでトップシェアを誇るFUSOが「キャンター」販売台数100万台を達成

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、インドネシアで「コルトディーゼル」として販売している FUSO の小型トラック「キャンター」が、1975 年の発売以来、累積販売台数が 100 万台に到達したと発表した。

単一市場、単一商用車モデルの 100 万台達成は、商用車ブランドでは FUSO が初めてとなる。コルトディーゼルは、インドネシアでの輸送需要が増え始めた 1975 年に発売されている。インドネシア政府はこの頃から同国における自動車産業の促進に着手。同年には、同車両のインドネシア国内での組み立ても始めている。インドネシアでの FUSO ブランドの卸売・販売事業は MFTBC との合弁会社である クラマユダ・ティガベルリアン社(KTB)が行っている。同社は 46 年にわたり、同国市場で比類なき成功を収めたことになる。

MFTBC のミハエル・カンパー 副社長

兼セールス・カスタマーサービス本部長は、「私たちの 46 年間にわたる懸命な努力が、インドネシアの小型トラック市場でのトップシェア維持につながりました。これはダイムラー・トラック・アジアや KTB の真の意味での達成であり、長年にわたるサクセスストーリーです。今後も KTB との関係性をさらに強化していきます」と語っている。



1975 年の発売から累積販売 100 万台に到達した「コルトディーゼル」。インドネシア FUSO のホームページにも 100 万台の数字が表示されている

東南アジア地域のリージョナル・センター統括の Kay-Wolf Ahlden は 2017 年 3 月 10 日、ジャカルタで開催された式典で、「このたびの快挙はお客様からの信頼、KTB との協力関係、インドネシアの経済成長、政府の支援のうち、いずれかが欠けていたら達成できなかったものです。今ではこの国のどこを訪れても、小さいながらも強力な黄色いトラックが、昼夜問わず一生懸命走り回りながら、この国の成長と発展に一役買っているのを目にすることができます」と述べた。

また、KTB の栗田敦ディレクターは、「このたびの快挙は、インドネシアにおける商用車の歴史において画期的なことで、初めて実現しました。この歴史的快挙は、インドネシアにおける三菱ふそうの基盤を一層強固にすると願っています。これにより、私たちの製品は今後もインドネシアの成長をサポートしていくでしょう」と語った。

KTB は同式典で、三菱ふそうのブランド・アンバサダーとなる Iwan Fals 氏を披露した。インドネシアでは英雄的存在で、伝説的ミュージシャンである同氏が、今後三菱ふそうブランドの販売促進をサポートすることになる。

三菱ふそうは 1970 年にインドネシア市場に参入し、翌年の車両発売以来、46 年にわたりトップシェアを維持し続けている。同国の人気車種である「コルトディーゼル」はインドネシ

アの小型トラック分野でシェア 55%を誇り、2016 年には小型トラックの販売台数で首位を獲得した。こうした成果は、FUSO ブランドの卸売・販売事業会社である KTB との密接な協力関係により、インドネシア市場に最適な製品をカスタマイズし、きめの細かいカスタマー・サービスを提供することにより実現している。

インドネシアは FUSO の最大の輸出市場であることから 2016 年、MFTBC は三菱商事(株)、三菱自動車工業(株)、クラマユダ社と KTB の株式保有率を 18%から 30%に引き上げることで合意した。FUSO はインドネシアの商用車市場にさらなる成長の可能性があると考え今後も注力して行くとしている。



100 万台達成記念の「コルトディーゼル」限定車両



インドネシアで「コルトディーゼル」として販売されている FUSO 小型トラック「キャンター」

「ダイムラー・トラック・アジア台湾」がオフィス開設 FUSOブランドをさらに強化

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は輸入・卸売事業を手掛ける合弁会社「ダイムラー・トラック・アジア台湾(DTAT)」のオフィスを台湾・台北市に開設し、同事業の本格稼働を開始した。同社はMFTBCが、台湾の商用車販売大手・順益貿易股份有限公司(Shung Ye Trading Co., Ltd. = SYC 社)と2016年8月に設立した合弁会社である。同社の株式保有比率はMFTBCが51%、SYC 社が49%で、小・中・大型トラックおよび小・中型バスを輸入・卸売販売する。同社は輸入、組み立て、卸売り、小売り事業を一元管理し、FUSOブランドの台湾市場でのプレゼンスをさらに高めることになる。

MFTBCのセールス・カスタマーサービス本部ミハエル・カンパー部長兼副社長は、台北で開催したオープニングイベントで、「ダイムラー商用車のアジア部門の成功のカギを握るのは市場での高いプレゼンスです。私たちは『重要市場でお客様に近い存在になる』というミッションを掲げています。台湾は同組織にとり、世界で最も重要な市場のひとつです。ダイムラー・トラック・アジア台湾を通して直接関与することでプレゼンスを一層強化し、カスタマーサービスをさらに高い水準に引き上げることができると信じています」と述べた。

DTAT設立は、台湾のユーザーにより近づき、市場

へのコミットメントの強化につなげられることになる。上質なカスタマーサービスを継続的に提供するとともに、全国159ヵ所にある同市場で広範囲なサービス網を通じて、ユーザーの車両に最高水準のアップタイム(稼働時間)を提供できる。

またDTATは、最高のカスタマー・エクスペリエンスを提供することで、台湾での製品ラインアップを拡充、市場のニーズに見合った製品を投入できる。2017年に導入を予定している製品やサービスは次の通り。

- ①独立懸架のフロントサスペンションを装備した総重量3.49トンの小型トラック「キャンター」を導入。機械式自動トランスミッション車とマニュアルトランスミッション車の両バージョンを揃えている。快適な操作性に加え、経済効率と高い積載量を同時に実現。
- ②台湾のユーザーニーズに応え、台北市が導入を予定している許容総重量に関する新規制に準拠した6.5トンの小型トラック「キャンター」を導入。
- ③技術革新のパイオニアとして最先端の車両を提供。台湾市場でも、電気小型トラック「eCanter」導入の可能性について調査を開始する。

さらに、DTATは先端製品ラインアップ提供で台湾市場にコミットメントを示すだけでなく、今後は台湾での社会貢献プログラムを通じて、同国の人材育成にも貢献するとしている。

- ①DTATはFUSOディーラーによる高速道路での車両の無料検査プログラムを支援。これによりディーラーは車両データの収集・分析を行うと同時にドライバーが車両の正しいメンテナンス方法を学ぶことで、安全性の向上を図る。
- ②台湾での人材育成を目的として、キャリアプログラム推進に関する説明会を全国で実施。
- ③台風や地震などの自然災害発生時にFUSO車両を提供し、救援活動を支援する。

台湾でMFTBCは1958年以来、SYC社を通じてFUSO製品を販売している。台湾はFUSOブランドにとり3番目に大きい市場と

なる。台湾の商用車市場でFUSOはトップシェアを維持しており、2016年には34%のシェアを獲得している。FUSOブランドは1934年に小型バス「B46」で台湾市場に初参入し、その後、1973年に大型トラック、1983年には主力製品である小型トラック「キャンター」の現地組み立てを開始している。2013年には台湾初のハイブリッドトラックとして、小型トラック「キャンター エコ ハイブリッド」を発売した。MFTBCとSYC社の長期にわたる密接な関係により、2017年、DTATを本格稼働し、台湾におけるFUSOの長い歴史に新たな1ページを加えたことになる。

■ダイムラー・トラック・アジアの概要

ダイムラー・トラック・アジア(DTA)は80年以上の歴史を誇る三菱ふそうトラック・バス(株)と、インド市場で躍進的な成長を続ける新会社ダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ社が共同で事業を行う組織である。DTAは、製品開発、生産、輸出、調達、研究活動を共同で行い、顧客にとって価値ある製品とサービスを提供する戦略的なビジネスモデルを推

進している。

■順益貿易股份有限公司(SYC 社)の概要

SYC社は長年にわたり台湾で三菱ふそうの商用車を輸入・卸売販売している輸入代理店である。SYC社が統括するShung Yeグループは、輸出入業から始まり、現在は台湾でFUSOの商用車、メルセデス・ベンツの大型トラック、三菱自動車の乗用車・SUV車、三菱重工のガソリン・ディーゼルエンジンおよび発電機、JXエネルギー製潤滑油、STAMFORD / AVK製オルタネーター、John Deere製ディーゼルエンジンなど、世界有数のブランドの製品を取り扱っている。同グループは主に自動車販売と関連サービスの提供、系列会社を通じた関連事業を展開している。台湾有数の商用車ディーラーである同グループは、直販店の設立・拡大に継続して取り組むとともに、ユーザーに高品質で迅速なサービスを提供している。同グループの従業員数は3,000人、直販店・直営サービス店は80拠点以上を数える(2015年)。2015年の売上高は約8億米ドルとなっている。



台湾の商用車市場でトップシェアを維持するFUSOトラック



台北で開催された「ダイムラー・トラック・アジア台湾」のオフィスオープニングイベント

話題のニュートラック新製品情報・新情報

ギヤモータ…住友重機

食の安全への意識の高まりを受け 防水仕様ギヤモータ 2 製品を発売

住友重機械工業(株) 100% 出資の住友重機械ギヤモータ(株)(本社：愛知県大府市／小林亮社長)は、小型ギヤモータの防水仕様2製品を開発し、2017 年 3 月 21 日に発売した。

小型ギヤモータは、コンベア、食品機械、包装機械、農業機械など、さまざまな産業機械に幅広く使用されている。近年、食の安全への意識が高まり、食品機械、包装機械業界より食品工場の衛生に適した仕様として防水仕様のニーズが高まっていた。

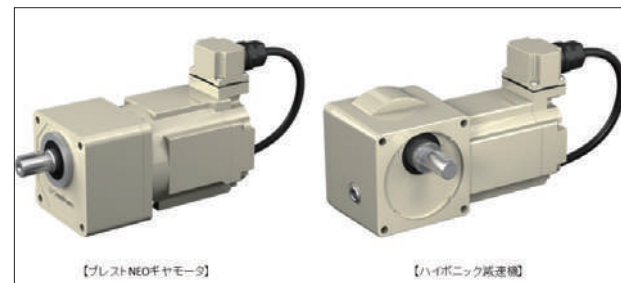
住友重機械ギヤモータでは、すでに保護等級 IP65（耐塵防噴流形）を満たすシリーズとしてハイボニック減速機、およびアルタックス NEO を発売しているが、今回新たにプレスト NEO ギヤモータの防水仕様 (IP67、IP65) を発売するとともに、ハイボニック減速機の 90W 以下についても保護等級を IP65 から IP67（耐塵防浸形）に改良したシリーズを発売する。住友重機械ギヤモータは、今後も食の安全に貢献できる製品、仕様の開発を継続して行くとしている。

新製品は、ギヤモータを丸洗いすることができるため、水がはねたり、定期的に水洗いする機械に最適なもの。IP65 と IP67 をラインアップしており、プレスト NEO ギヤモータは 40W ～ 2.2kW、ハイボニック減速機は 15W ～ 2.2kW のワイドバリエーションを揃えてる。さらに、水洗いしても抗菌力が持続する抗菌塗装(産業用ギヤモータで初めて SIAA 認証を取得)のオプションも用意しており、防水仕様と併用するこ

とで、水洗いが必要な環境で使用した場合でも、抗菌性を保つことが可能となる。

主な用途としては、食品機械、包装機械、ベルトコンベア、ミキサー、ポンプなどで、代表機種の標準価格は、200 V 級・三相誘導電動機・防水仕様・出力軸ステンレス製仕様のプレスト NEO ギヤモータ (IP67) で 30,600 円(税別)。販売目標は 5000 台／年(初年度)としている。

ちなみに、減速機は、モータの回転速度を最適なスピードに減速するとともに、回転力(トルク)を高める装置で、モータなどの駆動装置とそれによって動く装置の間に設置することで、必要なトルク、回転速度を得ることができる。減速機とモータが一体になったものを、特にギヤモータと呼び、産業用ロボットやコンベヤなどの工場設備から、自動ドアや遊園地の乗り物などの日常生活に関わる設備まで、われわれの身の回りで幅広く使われている



住友重機械ギヤモータが扱う防水仕様の小型ギヤモータ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

EV 活用…日産 & JTB コーポレート S

EV を活用したカーシェアリング 「ゼロエミッション・ツーリズム」を実施

日産自動車(株)は、(株) JTB コーポレートセールス(本社：東京都千代田区／皆見薫社長)並びに(株)日産カーレンタルソリューション(本社：神奈川県横浜市西区／岡本智社長)と共同で、電気自動車 (EV) 「e-NV200」を活用した宿泊施設でのカーシェアリング「ゼロエミッション・ツーリズム」を行うと発表した。

「ゼロエミッション・ツーリズム」とは、宿泊施設において、

観光客が観光スポット等への移動(カーシェアリング)、宿泊施設の送迎や業務などで、走行中に CO₂ を全く排出しない EV 「e-NV200」を活用するプログラムである。

2016 年 7 月より、神奈川県と箱根町にある 4 軒の旅館と共同で、本取り組みを行った結果、観光地で EV を活用する有効性が検証された。このたび「ゼロエミッション・ツーリズム」と名付け、全国へ展開することにしたもの。

JTB コーポレートセールスが同社の加盟施設や協力自治体を通じて、EV を活用した観光に積極的に取り組む意向をもって施設を募集し、国内 17 県の宿泊施設が「ゼロエミッション・ツーリズム」を導入する。

日産と JTB コーポレートセールスの協業による観光地での EV の積極利用は、地域の観光資源の保全と旅行の楽しさを両立し、観光地の持続可能性を高め地域活性化にも寄与することになる。

今回「ゼロエミッション・ツーリズム」で活用する EV 「e-NV200」は、多目的商用バン「NV200 バネット」をベースに、e- パワートレインを組み合わせることで、室内の広さや多用途性と EV ならではの滑らかな加速性や静粛性を兼ね備えたモデルで、バンだけでなく 5 人乗り、7 人乗りのワゴンタイプも設定されている。また、「e-NV200」は、最大 1500W の電力を供給するパワープラグによって屋外での電源供給が可能となり、走る蓄電池としてさまざまな場面で役立てることができる。

日産は、ゼロ・エミッション領域におけるリーダーとして、EV の開発、販売を行うだけでなく、EV を普及させ、持続可能なモビリティ社会を構築するために包括的な取り組みを行っている。今後も電気自動車の更なる普及に取り組んで行くとしている。

■ e-NV200 導入施設名一覧

【茨城県】ホテルニュー梅屋

【栃木県】アート・ビオトープ那須、アイランドホテル&リゾート那須、あったか〜い宿 勝風館、ONSEN RYOKAN 山喜グランドホテル愛寿、山水閣、那須野ヶ原ファーム、那須モンゴリアビレッジテンゲル、ホテルエピナール那須、ホテルサンバレー那須、松川屋那須高原ホテル、旅館山快

【千葉県】潮騒リゾート鴨川、ドッグホテル わん楽

【神奈川県】箱根 金乃竹塔ノ沢、箱根ホテル 小涌園、箱根湯本温泉 天成園、箱根湯本温泉 吉池



宿泊施設でのカーシェアリング「ゼロエミッション・ツーリズム」に採用された電気自動車「e-NV200」

【新潟県】松之山温泉ひなの宿ちとせ

【石川県】加賀八汐、十番館、天空の宿 大観荘、日本の宿 のと楽、山代温泉 たちばな四季亭、和倉温泉はまづる

【福井県】荒磯亭、あわら温泉 長谷川、エースイン福井、グランディア芳泉、清風荘、ふるさとの宿こばせ、ホテルフレアール和泉、まつや千千、みのや泰平閣、ユアーズホテルフクイ

【山梨県】ホテル八田、旅館 喜仙

【長野県】旬彩 月の静香

【岐阜県】岡田旅館、奥飛騨温泉郷 平湯温泉 旅館 湯の平館、ひらゆの森、平湯プリンスホテル、湯う香 三蔵庵

【三重県】賢島の宿 みち潮、志摩地中海村、和亭 朝日館、ホテルアルティア鳥羽、リゾートヒルズ豊浜 蒼空の風

【兵庫県】城崎温泉 西村屋ホテル招月庭

【和歌山県】湯処むろべ

【鳥取県】一般社団法人大山観光局、一般財団法人大山恵みの里公社、皆生温泉おーゆホテル、皆生グランドホテル天水 華水亭、寿製菓 お菓子の寿城、大漁市場なかうち、とっとり花回廊、緑水園

【岡山県】湯原町旅館協同組合

【山口県】梅乃屋、西の雅常盤、ビジネスホテル うえの、ホテルかめ福

【佐賀県】蟹御殿、星降る露天とかにまぶし 旅館 豊洋荘



働きやすい職場環境づくりで「従業員も幸せ」を目指すUDトラックス

UDトラックス(株)は、企業活動を通じ3つの「幸せ」の実現を目指している。一つは「私たちの提供する商品・サービスでお客様と私たちの暮らす社会が幸せになること」、二つ目は「その結果私たちの会社が幸せになること」、そして三つ目は「なによりUDトラックスで働く私たち自身が幸せになること」になる。

現代社会における働き方の選択は、少子高齢化や核家族化などの要因により多様化が進んでいる。また、ボルボ・グループの一員であるUDトラックスでは、アジア・オセアニア・ヨーロッパ・南米アメリカなど世界さまざまな国の出身者が働いており、それらの国籍数は20以上を数えている。

そのため、働き方に関する価値観も多種多様である。UDトラックスは、多様性(ダイバーシティ)を尊重し、相互理解して強みに変える(インクルージョン)ことを重視している。この考え方にもとづき、職場・働き方についても従業員が幸せになる環境づくりをソフト・ハードの両面から進めている。

ソフト面では、2014年に主に事務系従業員向けにコアタイム無しの完全フレックスタイム制を導入するとともに、在宅勤務制度(UDトラックスでは「ワーク・フロム・ホーム」と呼んでいる)を整備した。これら制度は従業員が家族との時間を有効活用することにも役立つが、世界中のボルボ・グループの同僚と協業することが多いUDトラックスの従業員たちの勤務の柔軟性維持にも貢献している。

女性も活躍しやすい職場であり、UDトラックスにおける女性管理職の数・比率は、業界内でも高い水準となっている。また、日本各地のUDトラックスのカスタマーセンターでも、

2016年よりシフト勤務制度を導入し職場環境の改善を図っている。

ハード面では、2015年の上尾本社ビル新設、上尾工場にある2箇所の食堂・工場事務棟・工場従業員のためのロッカールーム・シャワールームなどのリノベーションを実施している。また、各地のカスタマーセンターでも順次リニューアル工事を進めると同時に、2017年の4月には、上尾本社ビル1階に従業員向けのスポーツジムをオープンさせている。

UDトラックスは、ハード面での業務環境改善を図る際、ともに綺麗な職場の提供を目的とするわけではなく、例えば本社ビル各階には従業員が自由に休憩・交流ができる開放感のある広いスペースを設けるなど従業員間のコミュニケーションをさらに促進できるよう配慮している。

こうした施設を活用して、従業員による部門内・部門間のカジュアルな交流会(UDトラックスではボルボ本社が拠点置くスウェーデンの風習に従って、フィーカ「FIKA」と呼んでいる)が盛んに開かれ、さらなる「インクルージョン」を進める機会となっている。



UDトラックス上尾本社ビルに新しくオープンしたスポーツジム

エアドライヤから放出されるオイルでお困りの方
オイルキャッチャーで問題解決できます!

oilCatcher®
オイルキャッチャー

Nabtesco Service
ナブテスコ サービス 株式会社

TEL 03-3449-3621 FAX 03-3449-3647



素早い対応 徹底追求
お客様の信頼のために最高の品質を



5台積み車両運搬車
(扉レス車両、ローダウン車対応 OP 装着車)



5台積み車両運搬車
(扉レス、側方フォークリフト荷役対応低枠型)



大型3台積み車両運搬車
(ローダウン車対応ゲート装着車)



小型ベース軽自動車 3台積み車両運搬車



4t、5.5t ベース 2台積み車両運搬車
(オプション装着車)



小型ベース 2台積み運搬車
(カーボーイ OP)



5台積載車両運搬車
(Fジャッキアップ仕様 OP 装着車)



小型ベース 2台積み運搬車
(後柱昇降式、WB延長改造車)



細谷車体工業株式会社

本社 〒136-0071 東京都江東区亀戸1丁目7番3号 パークノヴァ亀戸 20
TEL 03-3683-0391(代表) FAX 03-3636-1105
八千代工場 〒276-0004 千葉県八千代市島田台815番地
TEL 047-488-2511(代表) FAX 047-488-2514